

# 総務省地域情報化アドバイザー優良事業事例

## 優良事業事例団体

団体名：認定NPO法人高知こどもの図書館

- 人口 :
- 面積 :
- 主な産業 :
- 地域情報化アドバイザー名 : 岡本 真氏
- 派遣対応年度 : 2019年度、2020年度
- 派遣回数 : 6回
- 支援形態 : 個別アドバイス
- 支援分野 : 図書館



## 優良事業概要

- 事業名：NPOの運営する図書館のデジタル面における業務効率化と資金獲得
- 事業の概要：当館は、入居施設の耐震基準を満たすため、2020年の春に施設を移転しました。移転を機に、理事の携わる運営面、職員の携わる業務面での大きな見直しの必要性を感じ、これまで抱えていた運営基盤の確立に対し、具体的なノウハウやアドバイスを外部機関の専門家からいただきたく、当該事業への申請を行いました。
- アドバイザーへの依頼内容：移転後の当館のミッションとゴール設定へのアドバイス。運営基盤の確立のために必要な資金調達の基本的な考え方と、デジタル化の重要性を学ぶことについて依頼しました。

## 地域情報化アドバイザーから受けた支援内容

- 支援を受けた内容：
  - ・当館のこれまでの活動で得た成果を確認し、新たなミッションとゴールを設定するにあたっての助言。
  - ・図書館における資金獲得の手法や事例を学び、Webサイトリニューアルのためのクラウドファンディングのスタートアップ時のサポート。
  - ・蔵書管理システムを導入し、館内のデジタル環境整備としてWeb OPACを開設する際のアドバイス。
  - ・NPO法人の情報化の必要性とその事例を学び、zoom、FBメッセージなどのツールを理事職員で活用する際のアドバイス。



## 支援を受けた事業の最新状況

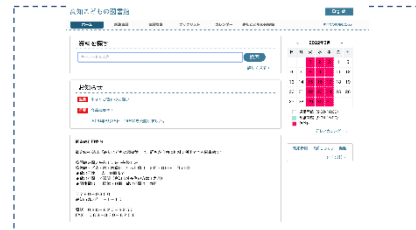
### ■ 運営面

図書館における資金獲得の手法や事例を学び、実践として当館のWebサイトリニューアルのためのクラウドファンディングに挑戦しました。(2021年10月13日～12月11日)『行けなくても訪ねられる図書館!こどもの本の世界を拓くWebサイト』プロジェクトは、267名の団体、個人の方から3,591,000円という大きなご支援をいただきました。現在、こども向けのWebサイト制作を進めており、2022年5月リリース予定です。



### ■ 業務面

蔵書管理システムの導入を行い、館内のデジタル環境が整備されました。Web OPACを開設することで、図書館外からの検索が可能となったほか、当館で連載している、こども高知新聞の小学生向け本紹介のコーナーで紹介した本の書誌事項も検索でき、こども向け読書支援サービスが広がりました。



■ その他、理事職員間の業務効率化のためのSNSの活用やコミュニケーションツールの導入により、外部機関との連携のしやすい組織づくりの視点を獲得することができました。Web OPAC導入やクラウドファンディング、Webサイト制作など、外部機関との連携事業が増えることで、県内の図書館から注目や関心を集め、事例報告など活動の場が広がっています。

## 地域情報化アドバイザー制度を知るきっかけ

■ 高知県四万十町の新文化的施設において、アカデミック・リソース・ガイド(株)の岡本真氏がアドバイザー業務を行っていた際、新文化的施設検討委員会の委員でもあった当館の理事が、地域情報化アドバイザー制度について知り、当館でも申請を検討する運びとなりました。

## 地域情報化アドバイザー制度に関する評価・感想

■ 評価・感想 : 地域情報化アドバイザー制度の活用は、客観的、かつ専門的な視点からアドバイスをいただけるので、事業や計画を検討する上で、大変有効でありがたい制度です。地方で、小さな組織で決まったメンバーで運営を続けていくなかでは、全国的な事例や新しい情報を知る機会が少なく、また、同業異業種を問わず、外部機関との連携にまでなかなか手が回らない状況がありましたが、当制度の活用により、新たな出会いと視点を獲得し、今後活動を続けていく中で内部の意識共有ができたこと、また、システムの導入や資金獲得など成果として残せたことが大きな自信となりました。